



子どもの森づくり通信

発行：NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク

J P 子どもの森づくり運動
参加園月例会報
(2020年6月号)

〒146-0082 東京都大田区池上1-3-4 tel:03-5755-3213 fax:03-5755-3081
http://www.kodomono-mori.net mailto:info@kodomono-mori.net

J P 子どもの森づくり運動とご縁をもたせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

<今月の1枚>



緊急事態宣言は解除されましたが、引き続き感染症対応の厳しい保育の日々を
お過ごしのことと推察申し上げます。季節の変わり目でもあります。
体調管理には充分にお気をつけ下さいますようお願い申し上げます。

今月号では、「東北復興グリーンウェイブ」と「園庭緑化運動」の活動レポートをお送りします。

写真は、石川県「平和こども園」から宮古市に送られた東北のどんぐりの苗木です。

(目次)

1. 「東北復興グリーンウェイブ2020」活動レポート
2. 「園庭緑化運動」活動レポート
3. 「園庭緑化運動」リレーエッセイ (2020年6月号)
4. 事務局からのお知らせ

■「J P 子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「J P 子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の保育園・幼稚園・こども園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「J P 子どもの森づくり運動」運営体制

・運 営 : NPO法人 子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）

・特別協賛 : 日本郵政グループ

・主な後援/協力/連携団体

(公社)全国私立保育園連盟

NPO法人 富良野自然塾

(公社)大谷保育協会

(公社)こども環境学会

保育環境研究所ギビングツリー

国際校庭園庭連合日本支部

(公社)国土緑化推進機構

(一社)日本森林インストラクター協会



1. 「東北復興グリーンウェイブ2020」活動レポート

2020年の「東北復興グリーンウェイブ」における岩手県宮古市での植樹活動は、新型コロナウイルス感染症対応のため来春まで延期となりました。ただ、全国の参加園で育てた東北の“どんぐり”の苗木を、「東日本大震災」の被災地に送り返す活動は、それぞれの参加園の園内で完結する活動として実施は園の判断に委ねました。結果、全国で18園もの参加園で活動が行われ、155本の東北の“どんぐり”の苗木が岩手県宮古市に届けられました。今年届けられた苗木は、宮古市の幹事園「あかまえこども園」さんで管理され、来春、宮古市と福島県の植樹フィールドに植えられます。

感染症対応で、現在、全国の保育園、幼稚園、こども園の子どもたちは屋外活動が規制され、自然や環境体験活動不足の状況にあります。そんな中、東北から送られて来た“どんぐり”を育てる活動は、子どもたちが自然の息吹や命を体感する貴重な体験となったとの参加園さんからのメッセージもいただきました。

1) 東北のどんぐりの苗木を被災地に送りました。

東北の“どんぐり”の苗木を見送る活動について、以下の4園からレポートが届きました。詳細は、ホームページをご覧ください。



広島県「山本まごころ保育園」



広島県「春日野まごころ保育園」



石川県「平和こども園」



新潟県「竹野町保育園」

2) 東北のどんぐりの苗木を受け取りました。

2020年5月に、全国の参加園さんから送っていただいた「東北の“どんぐり”の苗木」が、無事に岩手県宮古市の「あかまえこども園」さんに届きました。小関園長先生からは「コロナ対応で大変なときに、子どもたちの思いがこもった苗木を送っていただきありがとうございます！ 全国の子どもたちの思いを引き継いで、大切に育てていきます。」高橋主任先生からは「全国の子どもたちの思いを、東北の子どもたちに伝えながら育てていきます。任せてください。」との力強いメッセージをいただきました。



苗木は、「どんぐりの絆BOX」で届けられました。



今年も「絆」のメッセージが届きました。

2. 「園庭緑化運動」活動レポート

園庭を、単なる運動の場ではなく、子ども本来の資質を育む多様な自然・環境体験フィールドとして緑化（改善）することを目指すJ P子どもの森づくり運動「園庭緑化運動」（以下、「園庭緑化運動」）では、現在、静岡県「エンゼル幼稚園」 東京都「三茶こだま保育園」 鹿児島県「こども園ほしのこ」の3園でモデル事業が行われています。

園庭緑化運動では、まずどのような園庭が望ましいのかを園全体で考えてもらうために、同運動のアドバイザーをお引受けいただいた鶴見大学短期大学部 保育科 准教授であり、「国際校庭園庭連合日本支部」代表の仙田 考先生によるワークショップが行なわれます。今回、ワークショップを受けての感想を、静岡県「エンゼル幼稚園」の先生からご寄稿いただきましたのでご紹介します。運動で伝えたい大切な心が着実に広がっているようです。今後、他のモデル事業についても、活動レポートをお届けします。

これまでの私たちは園庭についてあまり深く考えていませんでした。園庭はただあるもので子どもたちが遊ぶ場所と考えていて、そこでの遊びの姿や実態をとらえるというよりは、いかに子どもたちが戸外で遊べる時間を作るかということばかり考えていました。しかし、園庭緑化という活動に出会い、研修やワークショップを受けていく中で、他の園の園庭や活動を見て、子どもたちに合った園庭環境を考えるきっかけとなりました。



ワークショップ風景

今の園庭を見直す中で、足りないことや満足のないことばかりに目を向けがちでしたが、今回のワークショップを受け、今ある環境を肯定的に見ることや、自分たちも子どもと一緒に遊びを楽しむことの大切さに気付きました。これからは保育者も子ども心を出し、子どもたちと一緒に夢中になって遊べるような環境づくりをしていきたいと思えます。

エンゼル幼稚園 鈴木千秋 松田みなみ

二回目のワークショップでは、自分たちの子どもの頃の遊びを振り返りました。そこで、今の子どもたちとは遊び方が大きく違っていることに気づきました。私たちの思い出に残っている遊びは、作られた遊具で遊んだことではなく、自然に触れたり、大人なら止めてしまうような少しわんぱくな遊びでした。

今は危険を回避するために、子どもたちをルールで縛り、遊びが固定化されています。そこで私たちの園では、子どもたちがもっと自由に、また挑戦的に遊べる環境を作ろうとしています。まずはスモールステップとして、今ある環境を活かしつつ、保育者がいつもの遊びの場に少し変化をつけ、子どもたちの遊びを広げようと思えます。



エンゼル幼稚園

園庭緑化運動では、より良き園庭づくりを目指す活動に取り組んでいる証として、参加園シートを掲示していただいています。

* 写真左：「園庭緑化運動」参加園シート

* 写真右：「エンゼル幼稚園」野秋園長先生と仙田先生



3. 「園庭緑化運動」リレーエッセイ (2020年6月号)

「園庭緑化運動」の振興を目的に、園庭緑化（改善）についてすぐれた研究や活動に取り組んでいらっしゃる四人の方々のリレーエッセイを掲載します。4月～6月号には、国際校庭園庭連合日本支部 代表 仙田 考先生にお願いしました。

「園庭緑化の意義と可能性について ～あそび緑化を目指そう！」

国際校庭園庭連合日本支部 代表、鶴見大学短期大学部保育科 准教授 仙田 考



みなさま、こんにちは。今回は「園庭緑化」の展開や可能性について考えたいと思います。

「園庭緑化」はさまざまな展開が考えられます。

最初に考えられるのが地植えです。園庭地面に樹木や苗を植えたり、どんぐりの実を蒔いていく。早くあそびへの活用や、季節感、日陰を作り出したい場合は、高さ（2-3m+）のある高中木を植えることが効果的です。しかし園庭土壌の改良や支柱建てなど造園業の方の支援も大切です。そこで保育者や親子でも参加できる苗やどんぐりから育てていくこともおすすめします。

なかには園庭が狭い、園庭を持たない園の方々もおられるかと思います。そこでプランターで苗、花育てを行ったり、窓際の緑のカーテン（朝顔、ゴーヤなどのツル性）、フェンスやベランダ・屋上緑化などの展開も考えられます。プランターの良さは、場所が動かせる、舗装を選ばないという点です。広さが欲しい時には場所を動かします。また土の舗装でないところでも、プランターがあることで、見た目にとっても癒され、会話やウェルカムな雰囲気生まれます。

「園庭緑化」にはさまざまな工夫の可能性があります。大切な視点は「あそび緑化」と「自然生態系への配慮」です。昨年12月の子森ネット「園庭緑化運動」関西研修会で小泉造園の小泉昭男先生が、「園庭の緑化はあそびに活用できる樹種で考えましょう」とお話されていました。園庭ビオトープを推進する日本生態系協会の田邊龍太先生は、園庭の緑化での地域種の導入の重要性について常々お話されています。また具体的な事例については、園庭研究所の石田佳織先生がご紹介くださると思います。今後先生方のリレーエッセイで具体的にお話うかがえますこと、私も楽しみにしています。

5月号でご紹介がございました、2020年度「園庭緑化運動」全国3つのモデル事業の活動も始まっています。そちらにつきましても、今後みなさまと情報共有していけたらと思います。

また仙田が関わっております国際校庭園庭連合日本支部では、このたび「グリーン・ホーム、グリーン・スクール、グリーン・タウンプロジェクト ～家、園・学校、まちに、緑のある生活を～」を立ち上げます。家庭、園・学校、地域での栽培・緑化・自然ふれあい活動を推進します。この状況で外出が難しくても、子どもたちが栽培や自然あそびを楽しめるよう、家庭、園・学校、地域でも展開し、より緑のある生活へと繋げていきたいと思っています。子森ネット「園庭緑化運動」とも連携をしております。

できることから、小さな一歩からはじめてみる。それが「園庭緑化」です。みなさまと一緒に最初の一步、踏み出してみよう。

それでは、みなさまどうぞお体に気をつけて。3か月有難うございました。ご縁がございましたら、またお会いしましょう。



コナラの苗の水やりの様子

※information : 国際校庭園庭連合日本支部 (ISGA-Japan)

国際校庭園庭連合日本支部 (ISGA-Japan) : 校庭・園庭の国際ネットワーク「国際校庭園庭連合 (International School Grounds Alliance, ISGA)」の日本支部です。子どもたちの屋外での多様で豊かな学び、遊び、生活を目指して、国際的な視点を踏まえ、日本の校庭・園庭・まちの環境や活動のあり方について考えます。 <https://www.isga-japan.com/>

4. 事務局からのお知らせ

別紙にて、「自然・環境体験講座全国キャラバン2020」の参加園を募集します。「withコロナ」に対応するプログラムのご提案です。開催回数が限られています。早めにお申し込み下さい。「♪どんぐりえがおでつながろうプロジェクト」の参加園も募集中です。